

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	ProgrammingDay横川		公表日			令和7年2月1日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	デイルームが最大限使えるように職員同士で声をかけあったり、席の配置を事前に決めている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%	0%	他の事業所からの応援を呼ぶことで同時対応などを無くし、より良い療育を行うことが出来る。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	67%	33%	掲示物などを随時更新することで事故を未然に防いだりしている。また改善は不可能だが事業所入口までが階段のため車椅子利用者などは難しい様子。	構造上、階段・段差があるがデイルーム内はバリアフリーである。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%	毎日の掃除や定期的に窓掃除など空いた時間があったら様々な掃除をしている。またお盆など利用者がいないタイミングで出勤をして時間が掛かる掃除や普段できない掃除を実施している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	環境はあるが、モニタリングや見学者対応等で相談室は利用するので、パーテーションで区切ったソファのある場所を提案している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	毎週木曜日に職員間での対応の振り返りをしている。また職員間での対応の振り返りをして、改善できる部分をチームとして探ることが出来ている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	92%	8%	年に一度アンケートを行ったり、来所される保護者には時々そういった内容もうかがっている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	毎週会議を設けたり、気になったことは随時話し合いをしている。またスラックなどを活用して極力情報共有を行い担当者以外でも対応できるようにしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0%	100%	法人内の別事業（就労継続支援A型事業）として受審しており評価結果を事業所に共有され、それをもとに業務改善に繋げている。	事業として受審義務はないもの、機会があれば受審し業務改善に繋げていきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	学ぶ機会を職員が考案して、開催してくれるので参加しやすい。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	92%	8%	担当者だけで作成するだけではなく他の職員にも意見を聞きより良い計画が出来るようにしている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	記録をする際に必ず確認できるシステムの構造になっている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化したツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	83%	17%	目標を達成するために本人はもちろん、家族の協力や他機関との連携が必要であれば関係構築や依頼を行っている。	支援に必要であれば積極的にこちらから機関や色々な方へアプローチを行う。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	50%	50%	療育提供の特長上、個別での活動プログラムの立案が多い。必要であれば他職員を交えたり、事業所内ミーティングにて話し合っている。	適宜に必要なに応じて少人数でも相談・検討する時間を設ける。

支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	日々その子の調子に合わせて他のメニューを提案したり、他の職員に対応してもらうことで固定概念も極力なくしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	42%	58%	個別の活動がメインであるが、自由時間に児童同士と一緒に遊びたい主旨があれば取り入れる。	個別支援を特長としているので、それを活かした支援を実践することに力を入れていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	必要に応じて小さなミーティングを開催している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	83%	17%		「必ず」や「その日」ではないが必要に応じて共有することを継続する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	92%	8%	色々な捉え方があることを伝えることで、「多様な体験」になるように意識して関わっているようにしている。	療育の特長上、「地域」との繋がりが難しいことはあるが、要望があれば関わっていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%	0%		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	他職員も把握したり参加の意思を伝えられるように情報伝達に努めている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	75%	25%	いつでも互いに協力し合えるように、自分の持っているコミュニティを活用している。	必要に感じたら相談員や学校関係者等に提案してより充実した支援が実施できるように体制を整える。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	75%	25%		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	25%	75%	保護者からは何っているが、施設とは情報共有を行っていない	必要に応じて連携する体制を整えている。保護者からの聞き取り飲みなので、就学前の事業所への連絡も今後していきたい
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	25%	75%	まだ当事業所では放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行した事例がない。提供する準備は出来ている	情報収集に努める。高校3年生まで在籍している子は少ないが、今後そのような経験があれば取り組みたい
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	83%	17%	支援に必要な知識や情報を得るために、研修の案内はチェックし参加している。	伝達講習を受けている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8%	92%		必要に応じて機会を活かす。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	25%	75%		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	普段からコミュニケーションを取るようにして、何でも相談してもらえるように関係構築を行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	92%	8%	事業所の一角を情報提供の場所としており、そこを保護者に見てもらえるように声かけをしている。チラシやパンフレット等持ち帰ってもらっている。	引き続き、いただいた情報等は資料の掲示や必要に応じて口頭で情報を提供していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	92%	8%		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	様子を見ながら言葉を選択して話をするようにしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%	0%		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	92%	8%		子どもの発達や成長について知識として学ぶ。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	42%	58%		特別要望がないため実施をしていない。希望があれば、機会を設定する予定。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	92%	8%		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	92%	8%	ラポの作成、発行。メールの送信。	より効率よく情報を受け取ってもらえるように、安全面に考慮しながら適宜取り入れる。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	個人名や住所等の記載のある紙に関してはシュレッダーしている。	実績記録表が机に置いてあることがあるので、使用しないのであれば所定の位置に戻したり、個人名等が見えないように裏返す等を提案したい。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%		
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	25%	75%	利用に関するだけでなく見学・問い合わせに応じるようにしている。	広く知っていただける方法として支援会議等に積極的に参加し広報していく。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	92%	8%		訓練に関しては情報の把握含め、実施していく予定としている。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	83%	17%		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%	0%	利用者票の記載を確認したりモニタリング時に通院の有無等を保護者へ直接伺うようにしている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	33%	67%	食べ物は提供しないので基本的には契約時の利用者票の確認を行っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	83%	17%		「安全計画」作成していない。作成しようと思う。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	92%	8%		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%		
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	92%	8%		